

0-6

図書館におけるコロナ禍での対応

○篠崎 徳子, 吉新 裕昭, 森戸 重男

獨協医科大学図書館

新型コロナウイルス感染症により各施設等が拡大防止の対策を余儀なくされる中、獨協医科大学図書館でも、大学の方針に従いながら図書館としての対応を行ってきた。来館者に対する対応はもちろんのこと、コロナ後の社会にて変化する利用者行動を踏まえ、学生や教職員の研究・教育・学修活動の支援を基軸に新規サービスの導入や、従来提供してきた電子コンテンツの拡充等に努めてきた。研究の面では情報化が進んでいたが、教育の面でも2020年4月には授業目的公衆送信補償金制度が早期施行され、情報化への流れが加速している。これらを含めた図書館の対応を紹介し、今後の課題にも言及する。

0-7

看護師特定行為研修の開催状況—コロナ禍での安全な研修をめざして—

○永井 睦子、井上 宗典、早田 美穂、
円谷 亮二、飯村 礼華、廣瀬 紗彩、
豊田 訓子、梅田 奈津美、江口 啓子、
斎藤 裕、仁戸部 富恵、種市 洋

獨協医科大学 SD センター

SD センターでは、2019年10月より看護師特定行為研修を開始した。1期生の11名はすでに1年間の研修を修了し、特定看護師として活動を開始している。また、2期生18名、3期生13名においては、感染予防対策をとりながら中断することなく研修をすすめている状況である。

共通科目・区分別科目の講義は各自 e-learning で学習し、演習は Microsoft teams を用いたテレビ会議、OSCE においては Web 配信等を活用するなど研修方法を変更して実施した。

徹底した感染予防対策のもと、研修生の意欲的な姿勢、各指導医師の理解と協力、研修運営方法の工夫を行い、新型コロナウイルス感染症の発生なく、安全に看護師特定行為研修が進行していることを報告する。

なお、本研修は文部科学省の職業実践力育成プログラム(BP)に認定された(2020.12.23)。